

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

取扱注意

内閣情報部監修

昭和十三年五月

變轉極りなき國際情勢の回顧

時局資料

310
138

310

138

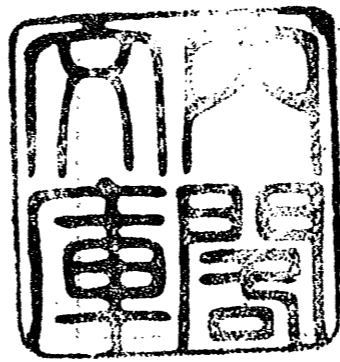
凡 例

- 一、本書は時局認識の爲めの参考資料として編纂したものである。
- 二、本書は昭和十三年四月二十日迄の資料により編纂したものであるから、今後情勢の變化に伴ひ改訂する必要があるものである。
- 三、本書は之を複製謄寫し或は轉載することを禁ずるも、内容を講演等の資料として利用せらることは差支ない。

内閣文庫	
和書	八九四九七号
九冊	

目次

緒言	一
一、現状維持諸國の後退と聯盟の弱化	二
二、獨伊兩國の提携	六
三、歐洲に於けるソ聯邦信用の失墜	九
四、西班牙問題の展望	一三
五、日獨伊防共協定の偉力	一七
六、南米に於ける反共思想の勃興	二〇
七、支那事變に對する列強の態度	二三
結言	二三



## 變轉極りなき國際情勢の回顧

### 緒言

國際情勢は變轉極りなく靜止するところを知らぬ。

大戰の失敗に依て一時没落に瀕した獨逸が二十年ならずして今日の隆昌を致し、ロマノフ家の崩壞に依て北邊の脅威全く去れりと信じた歐亞の列國が形を變へたソ聯邦の共產主義の害毒に脅かされ、世界永遠の平和を保障し得べきかに見えた國際聯盟が今や瓦解の末路を辿る等の事實は決して奇蹟ではなく、變轉極りなき國際關係の實相に外ならないのである。世界大戰以來數多の民族及國家の集散離合は寔に目まぐるしきものがあり、殊に茲數年來の左右兩思想の對立と現狀打破運動を繞る國際情勢は遂に大戰後強ひられた不合理なる國際勢力分野に一大變革を齎らしつゝある。

(1)

### 一、現狀維持諸國の後退と聯盟の弱化

獨伊等の現状打破派に對し、歐洲に於ける現状維持派の總帥は固より英佛二國であつて、波蘭及小協商三國の外、大戰に依て新たに興り又は膨張したる諸國は悉く之に屬するものである。而して波蘭の誕生はもともと民族自決の精神に基くものではあるが同時に獨逸の對佛復仇に備へるため、獨の接近を妨げ且つ東方から之を牽制せしめようとする佛國の政策によるものであつた。

又小協商國たるルーマニヤ、ユーゴスラビヤ及チエツコスロバキヤの三國は、勃牙利及匈牙利二國の復仇に對し協同防衛を約したるものであつて、之亦佛國の指導に依るものであり、之等三國に與へた佛國の軍事的財政的援助は決して少なくなかつたのである。即ち戰後獨逸の屈伏時代に於ては、北は波蘭から南は巴爾幹に至る間、悉く佛國の與國を以て中歐に於ける戰敗國を包圍し所謂對獨包圍陣は完成せられ、聊か佛國の不安感を醫するに足るものがあつた。

然るに大陸に於て佛國ひとり過大の勢力を振ふことは英國の傳統的大陸政策の許さざるところであつて、歐洲の平和に依り現状の維持を希求する英國も、戰敗諸國の復興に對しては佛國を抑へる爲に寧ろ之を支持するの政策を執つた。

又世界大戰成金國とも稱すべき幾多戰勝諸小國も、戰後佛國の得意時代に於ては其の支援に依り現状維持の夢も安らかに、佛國を盟主として政治的結束に些の搖ぎなきを思はしめたが、最近獨逸の目覺しき躍進振を見るに及んでは内心恐怖なきを得ないのである。殊に波蘭及小協商國を

( 2 )

初め所謂佛國の與國を以て任ずる諸國は大體に於て佛國と同じく農産國であり、國民生活の基調をなすべき經濟關係に於ては寧ろ工業國たる獨逸及伊太利等と接近すべき運命にすらあつた。從て獨逸の勃興に對する不安感と佛國の實力に對する危惧心乃至國家生存の必要から、早晚佛國と與國との結束弛緩を來すべきことを豫期せしめて居たのであるが、エチオピヤ紛争當時英國の強硬なる對伊態度に比し佛國の態度は終始伊太利に氣兼しつゝ、進んで聯盟規約の尊重に邁進するの氣魄を缺き、爲に小國運をして佛國は將來果して小國擁護の責を果し得べきや否やに關し少からず疑惑を抱かしむるに至り、次で昭和十年三月獨逸が一方的に再軍備を宣言し、翌年三月更にラインランド非武装地帯を占領するに及んでも、佛國は英國の協力を求むること能はずして何事も爲し得ず結局泣寝入りに終つた事實は、從來佛國の庇護に依て生きたとした諸國に對し少からず信用を失墜したものと云ふべく、獨逸の恐るべき勃興を見た今日、佛國に頼り過ぎることの危険性を痛感せしむるに至つたのであつて、さなきだに歩調の一致を疑はれた波蘭及小協商國に於て、互に其の信ずるところに向つて獨自の安全感を求むるといふ機運を醸成するに至つたのである。

( 3 )

嘗ては民族國家再生の恩人として佛國を畏敬し、廻廊地帯問題及少數民族問題等、獨逸との間に幾多の障壁ありて永久に對獨包圍陣の一角を承はるかに見えた波蘭すら、既に昭和九年には何

等佛國に謀ることなく獨逸と單獨不可侵條約を結んで佛國を失望せしめ、昭和十二年十月には更に年來の難問たる獨逸少數民族問題を解決して獨逸との親善を促進し、小協商國中の雄邦たるユーゴスラヴィヤ亦フューメ問題以來の舊怨を捨て、同年三月伊太利とベルグラード協定を結び、爾來兩國の感情は日に月に改まりつゝあると云はれ、佛國の伊太利牽制策亦一頓挫を來して居るのである。又ルーマニヤに於ても昨年十二月二十八日ゴーガ氏を首班とする新内閣の成立を見、頻りに反猶太及共產主義的政策を實行し少からず聯邦を刺激して居つたのであるが、本年二月クリステン内閣と更迭し多少政策を緩和した様である。然し乍ら國內一般に極右思想の瀰漫は争はれぬ事實であり、將來獨逸及同じローマ民族たる伊太利と接近すべき可能性を存するのであつて、此處にも亦佛國の惱みを否定することは出来ない。

斯くして佛國の對獨逸陣は既に各所に龜裂を生じたのみならず、伯林羅馬樞軸の完成を見次で本年三月十二日獨逸の併合をすら見るに至つた今日に於ては寧ろ反對に佛國自ら獨逸側に包圍せられた形であつて、佛國は戰後華やかなりし得意時代に比すれば寔に秋風落莫の感なきを得ない。

國際聯盟が元來戰勝者の造つた機關であり、従つて現狀維持を目標として居ることは周知の事實であるから、現狀維持諸國結束の弛緩といふことは一面聯盟の衰微弱化を意味すること勿論で

ある。創設の當初より米國の参加なく、曩に日獨の脱退を見、更にエチオピア紛争以來實質的に伊太利とは絶交状態に在つた聯盟が夙に無用の長物と化したことは論ずる迄もない。而も獨逸の再軍備及ラインランド占領當時に於てすら、單なる宣言の外何事をもなし得なかつた聯盟は既に存在の意義を失つて居たと云つてよい。

けれども英佛としては聯盟の解消は現狀打破氣運を助長するものとして飽く迄之が維持に戀々たるは之亦怪しむに足らぬところであつて、今次支那事變に際しても、主として英國の策動に依りて再び帝國を以て條約蹂躪者なりと決議し、ベルギー首都武府に於ける九ヶ國條約國會議開催を示唆したのであつた。然し乍ら聯盟自體は日支紛争の解決に乗出して再び醜を晒すことは其の自滅を意味するところから、解決の責任を巧みに九ヶ國條約國に轉嫁したのである。然るに昭和十二年十一月一日伊太利政府は遂に正式に聯盟を脱退する旨聲明して、精神的結合を遂げた日獨兩國と共に同一歩調を執るの態度を明かにし、次で翌日獨政府も亦聲明を發して、獨逸は壽府に於ける政治組織を以て無益有害なりと認むる點に於て全然伊國政府と見解を同じくするものであつて、従て將來獨逸の聯盟復帰の如きは問題でない旨を高唱し、茲に全く聯盟に對する最後の止めを刺した觀がある。尙傳ふるところに依れば、波蘭政府機關紙も亦最近論説を掲げ、聯盟が若し將來デモクラシー國家の集團化を計る場合に於ては、波蘭は思想ブロックの對立に反對する根本

國策に基き或は聯盟脱退の餘儀なきに至ることあるべきを示唆したやうであり、何れにするも依然聯盟が今日の如く無力を反覆するならば逐次脱退國の數を増加すべきは略ぼ想像し得るところであつて、嘗ては戰爭を永遠に阻止し得べきかとも思はれたウイルソンの理想的國際平和政治機構も哀れ果敢なき末路に在るものと謂ふべきである。

## 二、獨伊兩國の提携

昭和十二年歐洲政局の上に大きな波紋を投じた問題の一は獨伊提携即ち柏林羅馬樞軸の完成であつた。

大戰後の平和條約に對し獨伊兩國は共に大なる不満國ではあつたが、其の利害は必ずしも一致して居たのではなく、ナチス獨逸の東進政策が中歐方面より歐露方向に對し熱烈なる進出を企圖するに對し、伊は北守南進、地中海の制覇を期しアフリカに進出するため中歐問題に關する限り現状維持を主張して熄まなかつた。

昭和九年七月獨逸首相ドルフスがナチス黨員により暗殺せらるゝや伊太利は決然ブレンネル國境に軍隊を動員集中し、實力を以てしても獨逸の獨逸國合邦を阻止せんとするの態度を示したのである。

人口六千萬の獨逸が六百萬の獨逸國を併せ直接伊と國境を接することは、伊太利にとり大なる脅威でありムツソリーニの堪へ難い苦痛であつて、獨逸の獨立問題こそは實に從來獨伊の接近を阻止する痛たるの觀を呈したのであつた。

此の獨伊兩國の中歐問題を繞る利害の衝突を見てとつた佛蘭西は、伊太利を對獨逸包圍陣營に誘ふため昭和十年一月佛伊ローマ協定を結びアフリカ進出を許容するに至つた。然るに端なくも伊太利のエチオピア遠征は獨伊兩國を結びつける動機となつたのである。即ち伊エ紛争中、列國の對伊經濟制裁に際し伊太利に示した獨逸の好意的態度は、感じ易き伊太利國民を感激せしむるに十分なるものがあり、加速度的に獨伊の接近を見るの動機となつたのである。

エチオピア遠征以來、伊太利の南方大陸進出の雄圖は愈々本格的となり、古代羅馬の再現を夢みつゝ、地中海を制覇することは最早其の絶對的願望となつた。茲に於て伊太利は此の雄大な國策に邁進せんがため如何にして地中海に於て英國の勢力に對抗すべきか、北方に於て獨逸の脅威を如何に調節すべきかの二大問題に當面した。地中海は英國にとり單なる交通線でなく東洋植民地に通ずる大動脈に觸れた生命線であるが、齟つて北方中歐方面に對する伊國勢力の扶植は南方とは反對に必ずしも積極性を要せず、伊太利にして能く自由に亞弗利加方面に南進し得ば北方は之を消極的に防衛し得れば足るのであつて、寧ろ獨逸の懸命の南進勢力に對しては之と妥協し不必

要なる摩擦を避けることが出来るのみならず、却て獨逸との親善を強化し、以て自己の國際的地位を高め英國との對抗に資することが出来るのである。

此の伊太利の希望は獨逸にとつても亦最も歓迎する處である。それは伊國を英佛の陣營より奪ひ去り、大戦後佛國の努力せる對獨逸陣營を打破し得るのみならず、伊國との提携に依つて獨逸の歐洲政局に於ける地位を著しく向上し得るのである。

斯くして伊太利自らの斡旋により、昭和十一年七月成立した獨逸協定に依て、獨逸は埃太利の内政に干渉せざることを約すると共に、埃太利亦自らが獨逸民族國家たることを再認識するに至り、茲に伊太利は北方を概ね獨逸に委し力を専ら南方進出政策に向けることになつたのである。

此の伯林—羅馬樞軸結成の氣運促進に側面的効果を齎したものは西班牙問題の紛糾である。地中海沿岸に赤色勢力の進出することはファッショ伊太利にとり堪へ難い重荷であり、現にムッソリニ首相は、地中海上には一人の共產黨員の存在すら許されないと豪語してゐる。之に反しフランス政權勝利を得んか、獨逸と呼應することにより人民戦線陣營たる佛國の地位を著しく低下せしむるのみならず、英國のジブラルタル確保をも脅やかすので英佛兩國の容易に忍び得ざる所であり、西班牙問題に於ても獨逸の利害は英佛のそれと全く一致せず、愈々兩陣營の對立を助長するに至つたのである。此の間英伊の地中海沿岸諸國に對する抱き込み工作、英國の伯林—羅馬

樞軸切崩し運動、既に集團的安全機構のみに依存し得ざる小國連の自己保全工作乃至西班牙に於ける幾多局部的情勢の尖鋭化、英佛の提携促進等、火花を散らす大外交戦を展開したが、其の結果は一途に獨、伊と英、佛との對抗陣へと進展し、遂に昭和十二年九月下旬ムッソリニ首相の伯林訪問と云ふ歴史的事實により伯林—羅馬樞軸の完成は告げられたのである。今次の獨逸合併に當つても獨逸は終始伊太利の了解を得るに努め、伊太利亦獨逸にして其の北境を保障せば寧ろ埃國問題に於ては獨逸の希望を容認し、其の代り地中海問題西班牙問題等に於て依然獨逸の強力な支援を期待したのであつて獨逸の樞軸には些少の動搖を招來しなかつた。此の獨伊兩國こそは實に帝國防共政策遂行上の盟邦たるものにして、吾人は右二國の幸ある將來を衷心祝福して已まないのである。

### 三、歐洲に於けるソ聯邦信用の失墜

昭和七年一月ヒットラー政權が生れ現状打破、失權回復を高唱し積極政策を採用して以來、ソ聯邦は獨逸牽制の立役者として一躍歐洲の寵兒となつた。

戦後暫らくはソ聯邦と犬猿の間柄にあつた佛國も獨逸の目醒しき勃興に驚き、ソ聯邦の利用に焦慮し禮を厚くして迎合に努めた結果、昭和九年には聯盟強化の一策として之を聯盟に迎へ、獨



逸抑壓を金科玉條とする集團安全體制内に引き入れたのである。次で翌昭和十年獨國が再軍備の爆彈宣言を行つてからは佛國の恐獨病は益々昂じて遂にソ聯邦との間に相互援助條約を調印し翌年之を批准するに至つた。而して白耳義の中立還元と波蘭及小協商國の結束弛緩に基く不安は、佛國をして益々親ソ政策に深入りせしめたのである。

一方英國も亦獨逸復興の隆々たるを見ては憂如たること能はずして之を抑ふる爲にソ聯邦の利を用を策するやうになり、最近頃に兩國接近の氣運が開かれ、昭和十一年には英ソ海軍協定交渉、ソの對英クレヂット成立があり、ソ聯邦は二百萬に近き優良裝備の強力なる軍備と相俟つて數年來其の國際的地位の向上は頗る顯著なるものがあり、正に他國をして後へに墜若たらしむるの概があつた。其のソ聯邦にも遂に來るべき宿命の嵐が襲來した。それは國內相尅に基因する内部肅正の大旋風である。

ソ聯邦政府は彼のキエフ事件に端を發し所謂合同本部、併行本部等トロツキー派の清掃工作を實施したが其の餘波は昭和十二年春ゲ・ベ・ウ頭目のヤコフ事件に及んだ。斯る檢舉事件は如何にもソ聯邦内の物情穩かならざることを思はせたが、果然同年六月國防次長の要職にあつたトハチエフスキー元帥以下八將軍の銃殺が報ぜられ其の疾風迅雷的處断は世界各國を啞然たらしめた。從來の檢舉は主としてスターリン政權の攪亂を企圖せりと稱するドロツキー一派に對する制

裁であつて、事純然たる内政問題と見做されて居たが、今回の肅正工作は黨部と對立して宛然一敵國の觀のあつた赤軍に對する處断であつて、其の影響する處は頗る廣汎且深刻なるものがあり、爲に國內は固より國外に與へた衝動は殊の外大である。尙此の檢舉の嵐は今日に至るも繼續せられ世界各國の齊しく注視しある所であつて、今回の事件によりソ聯邦が甚しく内部缺陷を暴露し鼎の輕重を問はれたことは何人と雖も否定出來ない。就中その盟邦佛國の焦慮落膽は想像の外である。佛國はトハチエフスキー元帥の力量に深く信頼し、佛ソ相互援助條約に伴ふ軍事協調に關しては佛軍首腦部と彼との間に具體的に契約済であつたとさへ傳へられる程である。而して此の數年來多少の不安はあり乍らもソ聯邦の對獨牽制力に信頼して來た佛國に於ても、本事件に伴ひソ聯邦の實力を再検討しなければならぬといふ聲が相當強くなつたやうであり、過度に之を信頼するの危険を説くものも特に軍部内に多いと傳へられて居る。但しソ獨接近を恐るゝの餘り依然佛ソ相互援助條約の殘骸を守り續けてゐるものが尙ほ尠からずあることは勿論である。

西班牙内亂勃發以來ソ聯邦は地中海に赤化の一據點を獲得する爲莫大な武器と人員とを送つて人民戦線派を援助しあることは周知の事實であるが、昭和十二年夏西班牙人民戦線派に武器輸送中であつたと傳へられるソ聯邦汽船二隻が地中海で撃沈せられたことに關し、當時英佛及西班牙人民戦線側にも同様所謂怪潜水艦による被害事件があつたので、英佛は之が對策を總括的にニオ

ン會議に於て協議せんことを提唱してゐたのであるが、ソ聯邦は獨り此の潜水艦の國籍は伊國なりと斷定して、單獨再度に互り伊國政府に對し強硬な抗議を申入れた爲伊國は此の抗議を一蹴したのみではなく、ニオン會議にも参加を拒絶するに至つた。斯かるソ聯邦の態度は當時接近の徴ありし英伊の關係を離間し、地中海に於ける伊國の制海權確立を阻止すると同時に、ソ聯邦の發言權獲得を目的としたものと觀察せられ、英佛の大なる不滿反感を購ひニオン會議の結果ソ聯邦は却て警備の責任から除外せらるゝことゝなつたのである。

又西班牙不干渉委員會は昭和十二年夏以來英佛主張の他國義勇軍撤退案及伊獨要求のフランコ政權に對する交戦團體承認案を審議しつゝあつた處、同年秋の會議に於て雙方漸く妥協點に達するやに見えたが、ソ聯邦の強硬なる反對は會議を全く行詰りの窮境に追ひ込み、其の破壊的態度はいたく列國に嫌惡の情を催さしめ一般の同情を失ふに至つたのである。

又最近武府に於ける九ヶ國條約會議にも、ソ聯邦は極東關係國として招請せられたが、從來に於ける幾度かの非協調的行爲のため英、米、佛、伊等からも疎んぜられ構成を豫想せられた委員會にも除外せられるといふ有様で、主席代表リトヴィノフの會議中途に於ける急遽歸國は其の不快感からだとも傳へられて居る。

斯くしてソ聯邦の歐洲諸國間に於ける信用といふものは數年前に比すれば實に雲泥の相違であ

つて、最近は土耳其でさへ意の如くならぬ有様である。

#### 四、西班牙問題の展望

西班牙に於ける内亂は國內問題と云はんよりは寧ろ重大なる國際紛争であり、又思想戦であると同時に政治經濟戦でもある。

昭和十一年二月人民戦線派が政權を獲得して以來、大いに國內右派を彈壓し、頻りに共產政策を行ひ、總てソ聯邦體制に依る赤色革命への移行をすら懸念せらるゝに至つた。右派のフランコ將軍一派が同年七月蹶起したのは實に祖國西班牙を赤色の危機より救はんが爲の聖戦であつた。

此の紛争に於て赤色勢力排撃を主義とする獨伊兩國が革命軍側を支援せるに對し、地中海沿岸に歐洲赤化の一大據點の獲得を企らむソ聯邦と、左翼政府に支配せられて居る佛國が人民戦線政府軍側に同情するのは寧ろ當然である。西班牙の内亂は總て他に波及し、歐洲に於ける現狀打破氣運を助長するものとして現狀維持の本尊たる英佛兩國の最も嫌ふところである。殊に英國としては萬一西班牙が伊國の思ふ儘に處理せられた場合、英領ジブラルタルの如きは直ちに大なる脅威を受け英伊の地中海制覇戦は益々激化せらるゝ虞あるところから、西班牙の赤化より寧ろ伊太利に依る黒化即ち現狀打破を恐るゝのであつて、事變以來常に佛國と共に人民戦線政府軍側に好

意的態度を示した所以は茲に存するのである。又佛國としても佛伊關係の良くない昨今、西班牙の右翼化といふことはビレネー山脈の彼方にも更に一假想敵國を増すことを意味し、國防上重大關心を持たざるを得ない立場に在るのである。

そこで英國は内亂勃發後自ら提唱して佛、獨、伊、ソ、葡、白等の諸國を誘ひ西班牙の内亂を助長するが如き行爲を牽制せんとする所謂不干渉委員會なるものを組織し、更に翌年四月頃から列強艦船を以てする國際監視隊なるものを設けて西班牙への武器及援兵等の派遣を阻止することに努めたのであつたが、而も密かに行はるゝ列強の支援的態度は容易に之を阻むことが出来ず、此の間、人民戦線政府軍側飛行機の獨伊軍艦爆撃事件に端を發して獨伊兩國の監視隊脱退事件あり、又西班牙へ武器輸送中であつたと傳へらるゝ英、佛、ソ等の船舶が、地中海上に於て國籍不明の潜水艦飛行機等に依り襲撃せらるゝ等の事件があり、西班牙問題を繞る地中海上の空氣は頗る陰慘を極めたものであつた。そこで、同年九月瑞西のニオン會議なるものが催され、先づ英佛、ソ等の間に於て地中海監視の割當問題が再検討せらるゝに至つたのであるが、本會議に於て決定せられたる割當區域なるものは伊太利の擔任區域過少に失するとの理由に依り容易に同國の承服するところとならず、更に之に修正を加へて初めて其の参加を見たものである。然し乍ら斯の如き不干渉の努力も事實は單なる申合せに過ぎずして、關係國の左右兩派に對する援助は依然

(14)

として繼續せられつゝあるのである。

西班牙に於ける左右兩派の兵力は諸報區々にして一定しないが、フランコ側の約七十萬に對して人民戦線派は大いに之に優れるものゝ如く、又兩派に屬する外國義勇兵の數は各、五萬乃至十萬の間に在りと傳へられて居る。其の他飛行機、戦車を始め凡ゆる近代兵器が交戦兩派に蟄集し宛も各國兵器試験場たるの觀を呈して居る。

戦況は特に紛争第二年度に入つてから稍だれ氣味で活潑なる進展を見なかつた。マドリッド戦線を除き終始フランコ側に有利に進展し昭和十二年秋には既に北部鐵嶺の産地バスク地方は完全にフランコ側の手に歸して居たのである。然るに本年二月二十二日フランコ軍が要衝テルエルを奪回したのを契機として戦況は俄然活氣を呈するに至り、爾來フランコ軍攻勢の重點はビレネー山系南側のカタロニヤ方面に向けられ昔からレリダを領有するものは、能くカタロニヤを支配すとまで云はれたその要衝レリダ市を四月三日に占領し、更に別軍は長艦してバルセロナの西南海岸に近きトルトサの關門に迫り同月十五日地中海岸グイナロスを奪取するに及び、バルセロナ、パレンシア街道は完全に中斷せらるゝに至つた。事態斯くなりし以上、人民戦線政權の實力は最早重視するに足らず其の崩壊屈服も既に時間の問題であつて今や實質的にはフランコ政權が全西班牙の支配者なりと言ふも過言でない。フランコ政權が防共の十字軍として奮闘しある事實竝に

(15)

其の現實の權威に即應して帝國は昭和十二年十二月一日之を西班牙正統政權として承認し翌二日滿洲國及西班牙相互承認といふことになつたのである。

從來長く人民戦線政府軍側に同情的態度を採り來つた英國も亦、西班牙の新事態に即し夙にフランコ政權と通商代表を正式に交換し、實質的にフランコ政權承認に傾きつゝあるのは、打算的なる英國の遣り方としては寧ろ當然と云へよう。

傳ふる所によれば、昭和十二年十月末バルセロナを臨時に其の所在地としてからは、同人民戦線政府内に於ても無政府サンチカリズム主義系及共產系のものが排斥せられ、民主共和主義者の勢力濫頭して漸次フランコ側との和解氣分を見るに至り、英國はフランコ側に對し王政復古の承認を條件に兩政權間調停に立つ用意ある旨仄かしたとも云はれて居る。

兎もあれ、フランコ側には防共の大義名分があり、其の赫々たる戦果は多幸なる將來を約束せらるゝに十分なるものがあり、而も其の背後には強力なる伯林—羅馬樞軸の存するありて、將來に於ける健全なる發達は正に刮目して待つべきものがある。

尙茲に附言したきは、フランコ側成功の一大原因として宗教保護政策を忘れてはならぬことである。人民戦線政府側が無数のカトリック寺院と僧侶とを破壊、殺戮したに對しフランコ將軍自身が熱烈なるカトリック教徒であつて大いに宗教保護に盡したことは國內民衆の同情を呼ぶに與

つて力があつた。人民戦線派に好意を寄せた佛國內に於てすら、政府側の宗教破壊行爲が少からず反感を招いたのは事實であつて、彼等失敗の一因が茲にあること明瞭である。

### 五、日獨伊防共協定の偉力

一昨年秋調印せられた日獨伊防共協定は、國家の安寧及社會の福祉を脅やかし延て世界の平和を危殆ならしめんとするコミンテルンの破壊陰謀工作に對し防衛の協力を約したものであつて、同協定第二條に依り苟も平和と安寧とを欲しコミンテルンの害毒防衛に關し吾人と同様の關心を有する第三國に對しては常に門戸が開かれてあるのである。昭和十二年九月二十八日伯林の五月廣場に、ムツンリーニと肩を並べて立つたヒットラー總統は熱狂する民衆を前に雄辯を振ひ其の演説を次の如く結んだ。

「共產インスターナショナルは到る處に憎惡と對立とを齎し、到る處に破壊的作用を及ぼしつゝある。然しながら彼等の惡辣なる計畫も必ずや今日の共同デモストレーションを構成したる一億一千五百万人の意思の力によつて阻止せらるべく、此の壇上に立つて諸君に呼びかける二人の人間の意思によつて斷乎阻止潰滅せられるであらう。」

此の言葉こそは遠くアルプスを越えて友邦イタリアの國民に呼びかけたヒットラー總統の防共

陣參加の勸告であつたのである。

抑、伊太利の現政治體制なるものは、大戦後國內に猖獗を極めた共産主義を打倒したムッソリーニ首相の苦心建設に係るものであり、従て伊太利は思想的にはソ聯邦と氷炭相容れざることは當然で、炯眼なるムッソリーニ首相は將來英伊の葛藤の所詮避くべからざるを豫知し、而もスエズとジブラルタルとが擧げて英國の支配下に在る以上、特に有事の日に於ける戦時資材の輸入はどうしてもダルダネルス海峡を通じて黒海沿岸のソ聯邦に其の大部を仰がねばならず、尙平時に於てもソ聯邦の廣大なる市場は伊太利工業品の望ましき對象たるの關係にあるので、大戦後の伊國對ソ聯邦外交政策は大體に於て親密であつたのである。

然るに昭和九年ソ聯邦は國際聯盟に加入し始めて歐洲政局に於ける容喙權を得、次でエチオピア紛争に際しては英佛の意を迎ふるに急にして卒先對伊制裁を主張するに及んで俄然伊ソの關係は悪化するに至つたのである。加之次で起つた西班牙の内亂は事實赤と黒との對立であり、伊太利は西班牙の戦線に於てソ聯邦の軍人及兵器と血みどろの戦ひを演ずることになつた。伊太利は單に思想上のみならず軍事上に於ても事實ソ聯邦と抗争を續けて居り、兩國の關係は最近特に險惡を加へつゝある。今や伊國工場等に派遣せられて居つた多數のソ聯邦技師連は悉く放逐せられ伊國製艦船武器の供給も大いに制限せられるといふ状態である。

右の如く伊ソ關係の悪化は、一面多年互に白眼視して居た英ソ兩國關係の改善を促すの結果となつたが、他面柏林—羅馬樞軸完成を急がしめた所以でもある。

斯くして伊太利は東洋に覇を唱へつゝある帝國とも對外的に幾多の共通點を見出し、茲に從來に於けるソ聯邦との經濟關係を放擲しても尙且つ日獨の精神的團結に加盟せんことを決心するに至り、昭和十二年十一月六日敢然として日獨防共協定に參加したのである。

斯くして北海から地中海に至り更に東亞に連なり歐亞を結ぶ二億の三國民が此の協定に依て結ばれ、コミンテルンの破壊工作に對し世界の文明と平和とを擁護することを誓つたのである。

本協定はコミンテルンに對する單なる思想的宣戰であつて、決してそれ以外の何物をも敵視せざるのみならず又敢て思想ブロックを所期するものでもない。然し乍ら質實剛健、鐵石の如きゲルマン民族と、古代羅馬の騎士道を繼承する南歐の熱血民族及び武士道の傳統を誇る我大和民族のしつかり結んだ此の精神的結合こそは正に歴史的壯觀である。

鮮かなる日章旗、血に燃えるハーゲンクローイツ、王冠輝く三色旗の翩翩として併び樹つところ赤魔を防衛克服するに十分なるのみならず、又以て世界の平和と安寧に寄與し得べきもの少からざること最早説く迄もない。之を目してファッショ思想的ブロックであり、侵略者の結合なりと誣ふるものもあるが、逆説的には此の言をなさしむる程しかく效果的だといふことになる。

最近英國内閣に於てはイーデン氏退きハリファックス氏代つて外相となつたが、之は見方に依つては従來の聯盟偏重の理想主義外交から、世界の新事態に即した現實外交への轉移の可能性を物語るものと言つてよいのである。即ち従來の如く事毎に獨・伊と對立しては何事も爲し得ず先づ之と或程度協調するにあらざれば、歐洲の平和は保たれぬと考へるのは無理からぬことである。最近英國は獨・伊等と各個に外交整調に乗出した様で、伊太利とは去る四月十六日協定を結んだ。然し乍ら老練なる英國のことであり其の内心に於て何物を企圖して居るかといふことは最も注意の要があり、屈服をさへ餘儀なくせられたところの彼のためには不快なる防共陣營に對する離間工作といふことも強ち考へられぬことではない。

( 20 )

## 六、南米に於ける反共思想の勃興

佛蘭西革命の影響を受け西班牙及葡萄牙より獨立した南米諸國に於ては、由來北米合衆國に倣ひ一にデモクラシーを主義とする政治組織を採用し來つたのであるが、歐洲大戰後より漸次共產主義運動の擡頭を見、其の運動は年と共に活潑を加へ來り一方世界不況の影響を受けて一九三〇年前後の革命流行時代を現出するに至り各國共赤化運動を禁止し赤化分子の彈壓に努め來つたのであるが、昭和十一年來母國たる西班牙が共產黨に災ひされ悲惨なる内亂を生ずるに至つてから

は益々之に刺戟せられ、最近は各國共寧ろ獨裁的傾向が顯著になつて來たやうである。

試みに南米に於ける代表的大國たるアルゼンチン及ブラジルに就て見るに、兩國共に共產黨の跋扈に一方ならず惱まされた。既にアルゼンチンの如きは昭和五年九月の國粹派による革命勃發により徹底的共產黨の撲滅が實施され、從來同國首府ブエノスアイレスを根據として居た一ソ聯邦商事會社の假面を剥ぎ之を國外に追放したことは有名な事實であり、又昭和十二年十一月十日ブラジルに於て突如共產主義彈壓を表明するクーデターを斷行したことは世人の記憶に新たなるところである。

抑、ブラジルに於て共產黨の勢力が増大したのは昭和五年の内亂後である。當時内亂後の政界不安、竝に深刻なる生活難に乘じ其の勢力頓に増大し、憲法制定議會に二名の共產議員を選出したが、當時共產主義に關する書籍の出版盛んとなり其の賣行も驚くべきものがあつた。斯くの如き急速なる共產主義の進展に驚いた同國國粹主義者は右翼團體を組織し、共產運動排撃に乗出すに至つた。斯くて極右極左の對立が各地に於て尖鋭化して行く情勢下に於て昭和十年十一月の共產黨の暴動を見るに至つた、然し政府の迅速なる對策に依て間もなく鎮壓せられ軍人、政客、學者、論客等多數捕縛せられ共產系外人多數が國外に放逐され、戒嚴令が布告されたる儘今次の政變を迎ふるに至つた次第である。

( 21 )

在本邦ブラジル大使が昭和十二年十一月十二日外務大臣に手交した左のノートを見れば同國這般の事情が歴然と判明する。即ち、

「ブラジルに於ける新憲法の採用は共產主義宣傳を阻止するの必要に基いたものである。從來大統領の権力は世界の大勢に反して兎角制限され、政府は屢々其の根本政策の遂行を停止し戒嚴令を布いて公安を維持せねばならぬやうな状態であつたが、之は一九三四年の憲法が、極左派の擡頭と共に實行性を缺くに至つたことを立證したものである。殊に明年一月三日に舉行せられる次期大統領の選舉の候補者が發表されて以來事態は益々急迫して來た、莫斯科の黨員は此の機會に乗じ彼等一流の策戦を弄んで各候補者の政策に干渉し、國內に多大の不安を惹起せしめた。右の事態を洞察した保守階級の人々、一般大衆及軍人はブラジルをボルシェヴィキの危険脅迫より救出し得る唯一人の權威者たる大統領擁護の爲結束して起つた。(下略)」

(22)

此の伯國の防共的見地よりの政變が、他の中南米諸國に與ふる影響の甚大なるものあることは、該政變と同時に中、南米の主要諸國の輿論が何れも防共の見地より之に同情の意を表明したことからするも窺はれるのである。茲に見逃してはならぬ一事は、ブラジル、ウルグアイ及びアルゼンチン間に三國協定と稱する一種の防共協定が存在することである。之は締約國の一國に於て他の締約國の公安を案すと認めらるゝ、共產陰謀を發見した場合には、其の國に於て取締ることを規定したもので、實にウルグアイがソ聯邦と昭和十年十二月國交を斷絶したのは其の現はれであつて、此の一事を以てしても、南米諸國の反共思想なるものが如何に勃興しつゝあるかを知らしめる。

尙今次のブラジル政變に依り獨裁權を強化せりとの報は、共和主義を基調とする汎米主義を以て中、南米諸國を指導せんとする米國に對し相當の反響を興へ、特に一部に對しては變革の一斑因が反共にある點よりして、最近日獨伊防共協定の成立に關聯し、ブラジルも早晚同協定に参加するに非ずやとの危懼を抱かしめつゝあることである。

ブラジルは南米中での雄邦であつて人口四千二百萬を擁し、帝國の移民亦十七萬を下らず。其の他獨逸移民は五十萬に達し總人口の三分の一は伊太利人の血を引いて居る。彼の把持する防共的思想は日獨伊の隱然たる勢力と相俟て、能く赤魔に對する防壁たり得べく、以て世界平和に貢獻し得べしと信ずるものである。

(23)

### 七、支那事變に對する列強の態度

列強中支那事變に最も大なる關心を有するものは英、米、ソ、獨、伊、就中英ソ兩國である。帝國の勢力が大陸に伸展するといふことは、英國側から見れば多年營々苦心の下に築き上げた

英國經濟勢力の逐次退却を意味し、蔣介石政権の崩壊乃至事變長期に亙り延て支那の赤化を來すことは、三億磅に餘る其の在支投資と幾多の利権が大なる障礙を蒙るといふところから、支那の屈服は勿論事變の恒久化も大體に於て英國の最も厭ふところである。之を以て英國としては自己の權益を擁護せんがため支那の現状に大なる變更を加ふることなく、且つ可及的速かに事變を終結せしめ度いといふのが衷心からの念願であり、彼が事變以來有形無形に支那を支援し、爲し得べくんば帝國の軍事行動を抑壓牽制せんとしたる所以は茲に存するのである。

然るに英國としても歐洲に於ては地中海問題を繞つて伊太利との確執容易に解けず、其他各地屬領植民地等に於ては未決の難問少からざるのみならず、直ちに帝國に敵視せらるゝことは其の廣汎なる極東權益に脅威を受ける虞もある所から過度に帝國を刺戟することもならず、彼が單獨に事變に干渉するといふことは殆ど不可能に近しと云つてよいのである。

茲に於て英國として最も安全且つ效果的に帝國を牽制せんが爲には是非共集團的干渉を必要とし、就中米國との合作といふことを最重要視することは自然である。殊更に支那側虚構無稽の宣傳を支持流布し、聯盟機關を誘つて帝國を侵略者呼ばはりした張本人も英國であり、昭和十二年十一月武府に於ける九ヶ國條約國會議を召集し、非聯盟國たる米國の参加を求めて效果的干渉を策したのも英國である。

本會議が失敗に歸し、支那をして他力の頼むべからざるを自覺せしめた原因は固より帝國上下一致の確固たる決意、陸海軍の赫々たる戦果と、獨伊兩國の陰に陽に我に與へた好意的態度の與つて力ありしことは云ふ迄もないことながら、英米兩國の歩調不一致、合作の失敗といふことが其の最大原因なのである。

然し乍ら英國は今尙米國との對日合作に對する希望を棄てゝは居らぬ。而して此の合作にして成功せんか、事變に對する集團的干渉の實現性といふものは之を輕視するを許さぬのである。

昨年末揚子江上に於て我軍が殆ど不可抗力的情況に於て英米艦船を攻撃した事件の如き、幸に當局機宜の措置に依り圓滿解決を見るには至つたが、此種事件の發生殊に無用に米國を刺戟することは少からず英米合作を促す危険性を有するものがあつて、殊にソ支兩國の常に事あれかしと待望しつゝあることを忘れてはならぬ。

又一面英國は感情よりも算盤で動く國である。常に算盤を弾きつゝ東亞の形勢を凝視しつゝあるのである。今でこそ支那を支援した方が自己權益保全に利ありと考へて居るが、帝國が將來著々として支那に不動の既成事實を築き上げ如何なる對支援助も反日工作も所詮其の在支權益を擁護する所以でないことを自覺するの曉に於ては、驕然百八十度の旋回をなすべき可能性も無いではない。彼が西班牙政府軍に好意を寄せつゝも、最近フランコ軍側の最後の勝利を得べきことを



看破するや忽ち歡を之に通ずるのみか、フランコ政權に對する承認をも仕兼ねまじき態度を示すが如き此の邊の消息を物語つて居る。

現在英國は帝國に於ける反英輿論を氣にしつゝも、尙依然として支那に對する精神的支援及軍需品供給等に依る物的援助とを繼續して居る。併し之等は畢竟自らを利せんが爲の小細工であり、云はゞ商取引とも云ふべきものであつて大局から見れば殆んど問題とするに足らず、之に依て帝國の行動を掣肘すべき何物にも値しないのである。英國が支那に武器を送り香港が其の取引の中心であること等は、中立の立場に在る彼等から言はしむれば寧ろ當然であつて、利益の爲めには大戦中敵國に對してすら密かに武器を供給した例も乏しくなかつたのである。

唯英國の爲に最も惜むところは、賢明にして打算に敏なる彼としては餘りにも極東情勢に對する見透しが利かず、識らず知らずエチオピア問題の二の舞を演じつゝあるにあらずやといふことゝ、上述の如くさまで問題とするに足らぬ現在の彼の對支物的乃至精神的援助といふものが、帝國に於ける反英輿論の最大原因なりと觀られる節があるといふ點である。大戦中帝國が獨逸と戦ふことの不得策を承知し乍ら、日英同盟の誼を重んじ敢て英國側に參戦し、彼の極東權益擁護に盡したることの如何に大なりしかは彼自らが最もよく承知しある筈に拘らず、戦後の華府會議に於ては因縁淺からぬ日英同盟を弊履の如く投げた。然し帝國の好意に酬ひたものは何であつたか

と云ふことを忘れる程の健忘性でもあるまい。英國たるものは今日帝國內の反英輿論を氣にする前に、先づ過去に於ける自己の罪業と非紳士的態度とを反省すべきである。

次は米國である。

彼が支那に於て有する利權なるものは英國のそれに比すれば大した問題でない。然し支那は米國商品の良好なる市場であつて、帝國勢力の大陸進出に依り支那に於ける彼の政治及經濟上の利益が帝國に依て壟斷せられることは英國と同様頗る憂慮する所である。然し乍ら同じアングロ・サクソンでも、米國は英國に比し餘程國民性に相違がある。英の陰性にして理智に長け打算的なるに比し、彼は陽性にして正義感に強く稍、粗慢の嫌はあるが頗る應揚恬淡で義侠に富んでゐるところがある。而して政府政策の實行は輿論に支配せられ易い國柄であるだけに此の國民性が政策の上にも極めて露骨に反映するのである。之を今次事變に對する態度に就て見ても、帝國の支那發展を喜ばず且つ通商上の損害を危惧する點では英國と一致してゐるが、英國程しかく打算的に動かず、弱者を憐み彼等の所謂人道主義から早く戦争を歇めさせ度いといふ態度が多分に窺はれるのである。彼は無限の天然資源に恵まれ、土地廣く人富み國榮えて現狀を維持することが最も幸福である。而も地理的關係は自ら挑發せざる限り他國から侵される心配もなく、従て所謂モンロー主義を堅持することが最も彼に幸福を齎す所以である。之を以て米國は歐洲に於ても極東に

於ても、餘程其の體面を傷けられ利益を侵され感情を刺戟せられざる限り、事件不介入の賢策を執らんとすることは諒解の出來るところである。されど其の有する無限の富と強大なる海軍とは彼を利用せんとする列強にとつては大なる魅力であり、動もすればその利用策謀の對象となり易いのである。今次事變に於ても米國は當初から中立不介入の政策を表明して居たが、彼を動かして帝國抑壓の資に供しようとしたのは實に前述英國のみでなく、支那然り、ソ、佛亦然りである。十月五日ルーズベルト大統領がシカゴに於て「日本の行爲は條約破壊なり」と演説した時及揚子江上に於て誤つて米艦バネー號が撃沈せられし時に、今にも對日干渉が初まるかと支那を初め帝國に快からざるものをして狂喜せしめたことは想像の外であつたのであるが兎も角も今迄の所は紛争不介入の方針を持續する事が出來たのである。

然し乍ら元來米國は實力を保有するにあらざれば米國の名譽と平和とを維持し得ざるものとなし、所謂建艦通報問題に藉口して軍備擴張に邁進せんとしつゝあるは特に注目し得ざるものと認められる。

ともあれ現在に於けるアングロ・サクソンの底力なるものは政治的にも經濟的にも決して輕視を許さぬものがあつて、事歐洲問題に關しては今尙英國の向ふところ必ず重點を形成するの實情に在り、而も此の英國の動不動は米國の思惑如何に關すること大なるは嚴乎たる事實であつて、

極東問題に關しても將來此の英米の動向なるものは最も判斷を慎重にして其の取扱に警戒を加へねばならぬのである。

次は獨伊兩國である。

彼等二國の平時に於ける對支通商關係亦相當密接なるものがある。特に獨逸の對支貿易は近年長足の發展を遂げ、其の輸出に於ては既に世界第二位を占めて居るのであつて、事變長期に互に其の經濟上の利益を犠牲にすることは彼等の少からず苦痛とするところであり、一面帝國が過早に戦力を消耗することは共同の關心を持つ第三國に對する迫力減殺を意味することゝなるので、齊しく事變の迅速なる解決を希つて居ることは想像に難くない。之等二國が事變以來、陰に陽に帝國に示しつゝある好意的態度の感謝に堪へざるもの多きは既に國民衆知の通りである。

次は佛國である。

佛國は歐洲問題に關しては對獨關係上是非共英國の利用といふことが絶對的必要であるところから、今次事變が單なる極東問題であるにせよ、概して英國の態度に追隨を餘儀なくせられるといふことは是非もないことである。然し乍ら佛國は支那そのものに就ては他に比しきまで關心を持つてゐない。一方無用に帝國を刺激することは、延て佛領印度支那の脅威を招くべしといふ杞憂を抱いて居るので、帝國が殊更に彼の極東利權を侵害するの態度に出でざる限り、彼の態度も

強がら露骨なる反目的たり得ざることも略々想像に難くないのである。

最後はソ聯邦である。

彼は最も事變恒久を希ふ國の一つである。之に依て帝國の戦力を消耗せしめ、以て自己に對する重壓を排除せんとするのが第一目的であり、又支那の長期抗日と其の内部動搖に乗じて支那に赤化の魔手を伸さうといふのが第二の目的である。そのため事變以來凡ゆる努力を以て支那の抗日を使喚し長期抗日を助けて居る。同じく支那を助くるにしても、英國の如く必ずしも支那現政權の支持を策するものではなく、要は帝國の戦力を消耗せしめ支那が共產化すればよいのである。従て蒋介石政權は彼が抗日を続け居る間に於てこそ利用の價值あるも、屈服必至の情勢を見るに於ては寧ろ之を打倒し、之に代る強力なる赤色政權こそ彼の最も好ましき利用の對象なのである。現在蔣政權に對しては、新疆省方面から主として飛行機や操縦士を供給し長期抗日を煽動して居るやうであり、英米の對日合作は英國同様に彼の望むところである。現在内部肅清工作に基く國內動搖と日獨伊の精神的結合が原因し、對外挑戦の舉に出る如きことは多大の困難があると考へられるのであるが、將來事變が長びき、萬一にも國際關係に變轉を來し軍事上經濟上等の事情如何によつては決して油斷が出来ないのであつて、ソ聯邦は事變處理上依然として最も警戒を要するものなることは勿論である。

( 30 )

### 結 言

以上述べた所を綜合すれば、現在の世界に於ては所謂左右思想上の對立と、現状維持派と打破派との對立との二大潮流があつて、世界の津々浦々に至る迄鑄を削つて居ることが判然と判るのである。

現状維持派と打破派との對立は大戦後主として歐洲に行はれつゝあるのであつて、獨逸の勃興と伊國の躍進特に兩國の結合は著しく打破派の勢力を擴大したものであつて、將來英佛等が大いに讓步せざる限り歐洲に於ける政情不安は逐年増大して行くべき運命に在る。

此の秋に方り突如として極東に展開せられたものが今次の支那事變である。帝國が防共と云ふ見地から現状打破の二大勢力たる獨伊と手を携へた今日、ソ聯邦は固より、現状維持の盟主たる英佛が或る程度帝國に不快なる態度を示すといふことは強ち無理ではない。今や帝國の對支作戰は至る處に赫々たる成果を擧げつゝある。他方に於て列強特に英米との關係を調節し、帝國の行動に對する障礙を除去し、ソ支の策動に對する方策に重點を置き今後益々慎重善處する必要がある。

( 31 )

之を要するに世界の情勢は大體に於て帝國を軸として我に有利に旋回しつゝあるので帝國の所

期する根本的東亞平和政策遂行上毫も躊躇逡巡を要しないものと信ずる。  
併し乍ら國際情勢の變轉極まりないことは既に述べた通りであつて、今後如何に不利なる情勢  
が起らぬとも限らないのである。従つて帝國としては益々舉國一致の態勢を強化し長期戦を遂行  
するの覺悟を更に固めることが必要である。

昭和十三年五月五日印刷發行  
發行者 内閣情報部  
東京市麹町區永田町一丁目四番地  
印刷者 小林 又七  
東京市麹町區永田町一丁目四番地  
印刷所 小林又七印刷所

